

ウシオの今と未来をお伝えする

P R I S M

第50期報告書

[2012年4月1日～2013年3月31日]

2013年6月発行

株主・
投資家の
皆さまへ

光のものがたり

光で、みつける。



CONTENTS

- | | | |
|--------------------|--------------|--------------|
| 2 光のものがたり | 9 グループトピックス | 17 第50期の事業概況 |
| 4 光テクノロジー & フロンティア | 10 セグメント別の概況 | 18 株式の状況 |
| 6 株主の皆さまへ | 14 連結決算 | 19 会社概要 |

USHIO

ウシオ電機株式会社

光で、みつける。

Part1: POCTという考え方

皆さんは「POCT」をご存知でしょうか？ Point of care testing（ポイント・オブ・ケア・テストング）の略で、日本語では「臨床現場即時検査」と呼ばれています。つまり、患者がいるその場で、迅速に行なう検査のこと。何だ、普通の検査じゃないかと思われる方もいるかも知れませんが、実は奥の深い話なのです。

キーワードは「その場」で「すぐ」に

「それでは明日、検査結果を聞きに来てください・・・」。体調が悪い中、せっかく病院に行っても原因が分からずガッカリすることがありますよね。採血やサンプル採取をしても、その場ですぐに結果が出ないものはPOCTとはいえません。POCTとは「被検者の傍らで医療従事者が行う検査であり、検査時間の短縮および被検者が検査を身近に感ずるという利点を活かし、迅速かつ適切な診療・看護・疾患の予防、健康増進等に寄与し、ひいては医療の質を、被験者のQOL（Quality of life）に資する検査*1」のこと。

つまり、再来院や待合室で長時間待つ必要のない、患者に優しい検査のことです。身近な例では、病院でのインフルエンザ検査や自宅での妊娠検査もPOCTに含まれます。

「定性」か「定量」か、それが問題だ

ただ、インフルエンザも妊娠も、検査結果は「Yes／No」の「定性検査」であり、結果は＋、陽性陰性で表されます。この定性検査で対応できる項目については、すでに多くの試薬や検査技術が普及しており、一般的な病院でもPOCTが可能になっています。

しかし、よりQOLを高め、予防医療を実現していくためには、特定の物質の濃度や量を正確に測定し、数値で表す高精度な

「定量検査」によるPOCTが必要であり、各医療機器メーカーはそのための検査機器や試薬の開発にしのぎを削っています。

POCTで「その場」で「すぐ」に「治療」へ

たとえば国内最大の感染症といわれているB型・C型肝炎。特にC型肝炎は、治療をせず放置すると高い確率で肝硬変を経て肝ガンへと進行する恐ろしい病気です。この治療に近年「瀉血療法*2」が注目を集めており、その治療方針を決定するための指標として「血清フェリチン*3」の量を測定する定量検査が必要となります。

血清フェリチンは一般的な健康診断の血液検査項目には含まれていないことが多いため、定量測定が可能な高額かつ大型の自動分析装置がある大きな病院に行く必要があり、結果として有効な治療法が満足に普及しない遠因となっています。

つまり、限られた病院でしか検査や治療を受けられないため、高齢者や自営業、また子育て中の主婦など、治療が必要と分かってもなかなか受けられないという事態になってしまいかねないのです。

また、この血清フェリチンは悪性腫瘍などの腫瘍マーカーとしても利用され、肝ガンをはじめとして膵ガン、肺ガン、子宮ガンなどの診断にも利用されています。もし、近所の病院で、その場ですぐに検査結果が分かる機器や試薬があれば、より多く

の人が検査を受けられるようになり、ガンの早期発見ができる場合もあります。

このように、これまで潜在化していた病気を早期に発見し、治療に結びつけることが、POCTには期待されています。

発展途上国でのPOCT

POCTの有効性は、先進国におけるQOL向上だけではなくありません。POCTであるということは、手軽で、誰にでも扱え、結果も安定しており、しかも安価である、ということです。発展途上国では定量検査が可能な高価な検査機器はまだ少なく、一般の人々が気軽に利用することはできません。そのため、衛生状態や医療水準の低さに起因するC型肝炎や、風土病であるサラセミアなど、その国や地域の事情にあった検査項目に特化し、簡便で安価な検査こそが求められているのです。



こうした課題に対し、日本から東南アジアをはじめとした発展途上諸国への医療支援のODAとして、現在POCT向け検査装置の導入が検討されています。それらが広く普及することで、早期発見による治療や予防はもちろん、医療水準の向上や経済的負担の軽減に貢献できる可能性があり、ウシオも独自の光技術と画像処理技術で貢献しています。

- *1 POCTガイドライン(日本臨床検査自動化学会)より引用
- *2 瀉血とは体内から血液を抜くこと。一般的に1～2週間おきに200～400mlの瀉血を行ない、フェリチン値を低下させる療法のことを瀉血療法という。これにより、鉄分過多を要因とする肝炎の進行を抑えることができる。
- *3 鉄を貯蔵しているタンパク質のこと。体内の貯蔵鉄の量を反映して血清フェリチンは増減し、これを定量分析することで、鉄欠乏性貧血や鉄過剰症、白血病、C型肝炎における瀉血治療前などの検査・診断や病態把握に役立つが、一般的に定量分析が求められている。



光で、みつける。 Part2: 光だからできること

2013年4月、ウシオは日本で初めて※、イムノクロマト法による血清フェリチンの定量分析が可能な血液分析装置「ポイントリーダー®」と専用試薬の販売を開始しました。そこには、ウシオが長年にわたって培ってきた光技術と画像分析技術が活かされています。

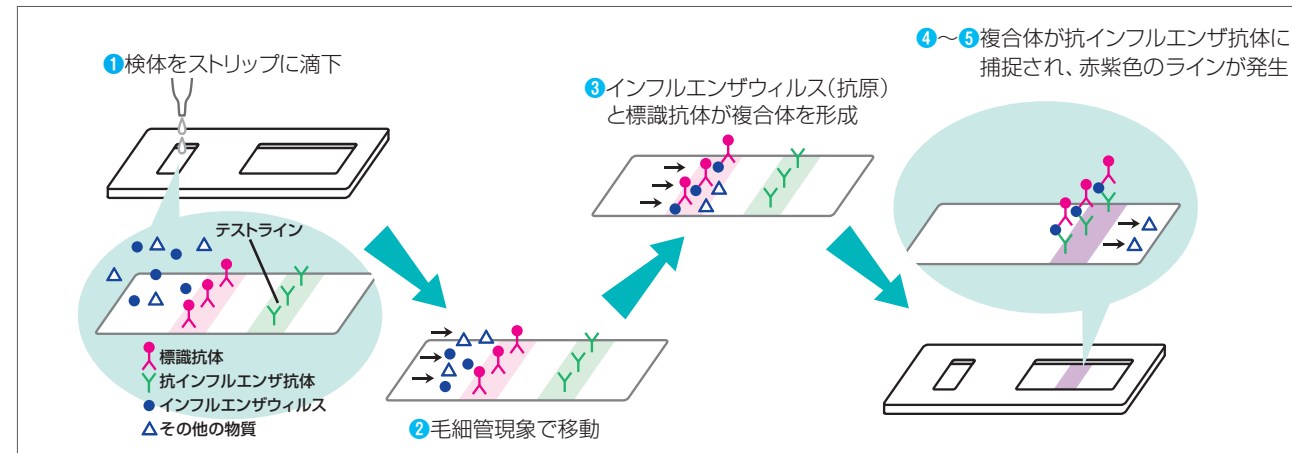
※2013年3月31日現在、自社調べ

イムノクロマト法とは？

インフルエンザや妊娠検査でおなじみの簡易検査（迅速診断）キットなどでよく採用されている検査方法です。“イムノ”は「免疫の」、クロマトグラフィは「物質を分離させる」という意味です。たとえばインフルエンザでは、患者の鼻腔から採取した検体を希釈し、それをストリップと呼ばれているものに数滴滴下します（①）。検体は毛細管現象によって移動（②）し、検体中にインフ

ルエンザウィルス（抗原）が存在すると、それに反応する標識抗体と複合体を形成します（③）。その複合体がさらに移動し、テストラインにある抗インフルエンザウィルス抗体に捕捉されます（④）。複合体は一つひとつが目視できないレベルで発色しており、その捕捉された数が増えると赤紫色のラインが目視レベルにまで色がつくため、ウィルスの有無が判定できるのです（⑤）。

イムノクロマト法の測定イメージ



日本初、イムノクロマト法による血清フェリチンの定量測定

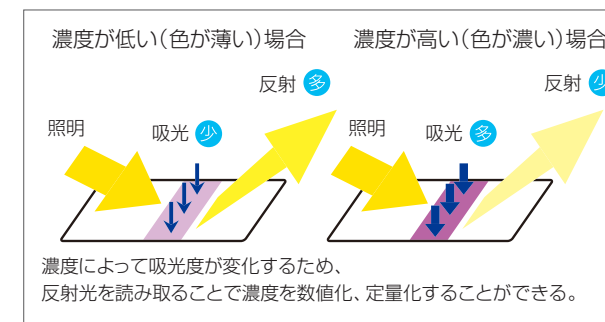
従来、このイムノクロマト法は取り扱いが簡易な反面、血中に何%存在するか、という定量精度が低いため、検査項目は、主に感染の有無が分かればよいインフルエンザをはじめ、妊娠やアレルギー検査などの定性分析に限られていました。



ポイントリーダー®および
ポイントストリップ®外観

そのイムノクロマト法を用い、日本で初めて血清フェリチンの定量測定を実現したのが、ウシオの「ポイントリーダー®」とその専用試薬である「ポイントストリップ®」です。検体中の血清フェリチン濃度によって現れる微妙な色の濃淡を独自の光学技術とアルゴリズムで解析することで、イムノクロマト法での分析能力を飛躍的に向上させることに成功。性能において大型の自動分析装置と良好な相関性を示しており、これまでは不可能だった臨床現場における血清フェリチンの定量分析を可能にしたことで、検査精度のバラツキをなくするとともに、患者はもちろん、医療従事者の負担軽減を実現しました。

光学測定のイメージ



ウシオ独自の測定法も

このような現場（＝オンサイト）での正確な検査に対するニーズは、たとえば食品中のカビ毒や有害添加物の検査、感染症におけるウィルス・細菌の検査、血中に含まれる各種バイオマーカーの検査など、多岐にわたっています。

これに対しウシオは、全く新しい独自の測定法「Q-body」を採用したオンサイト微量分析キットの開発を進めており、現在、麻薬密輸の取締りにおける輸入貨物に対する検査ツールとすべく、税関の分析機関で評価中です。



税関の分析機関で評価中のウシオのオンサイト微量分析キット

これからもウシオは、さまざまな現場との綿密な連携のもと、皆さまの安心や安全、環境保全などに光の技術で貢献してまいります。

これら製品および技術の詳細については、ウシオ電機Webサイト（www.ushio.co.jp）をご覧ください。



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第50期（2013年3月期）報告書「PRISM」をお届けし、当期のウシオグループの事業環境や各事業の概況、および今後の取り組みについてご報告申し上げます。

2013年3月期の業績

当期の売上高は、前期比4.4%減の1,434億円、営業利益は29.1%減の75億円、経常利益は19.6%減の105億円、当期純利益は18.2%減の71億円となりました。

当社の主要市場であるエレクトロニクス業界において、期初予想に反して顧客企業における製造ラインの稼働率低下と新規の設備投資抑制が長引いたため光学装置の販売が振るわなかったこと、また想定内ではありましたが、デジタルシネマプロジェクタ(DCP)の販売減少があったことなどにより、減収減益となりました。

配当につきましては、長期的安定配当という方針から、当期は1株当たり22円を継続いたします。

エレクトロニクス関連事業は引き続き成長ドライバー

ここ数年、エレクトロニクス業界ではスマートフォンとタブレット端末以外の不振が続いた上、中国など新興国の成長にも陰りが出ているため、当期のエレクトロニクス関連市場は厳しい環境のうちに推移しました。

しかし目下、タブレット端末の需要がさらに膨らむと予想されており、それらに向けた設備投資が活発に行なわれていることから、当社でもタブレット端末向け液晶パネルや有機EL向け生産設備の需要獲得に注力しているところです。

また直近では、スマートフォンやタブレット端末に加えて高性能PCやTVの需要が世界的に増えつつあるため、近い将来、現在の生産能力過剰は解消されるものと思われます。

DCPは高性能機種からローエンド機種へシフト

DCP市場は、クリスティのハイエンドの機種が日本やアメリカなどの先進国でほぼ普及が完了したため、今後は映画館やシネマコンプレックスが増え続けている新興諸国を主な市場とし

2013年発表中期ビジョン（2016年3月期達成目標）

■ウシオグループの目指す姿

光関連事業において、
世界No. 1のブランドと技術力を誇り、
顧客ニーズを満たす最適なソリューションを
常に提案できる【光創造企業】

■定量目標

	2016年3月期(計画)
売上高	1,900億円
営業利益	190億円
営業利益率	10%
ROE	8%以上

て、ミドルからローエンドの機種の普及に力を入れていく計画です。クリスティでは新たに、中国やインド市場をターゲットとした小型で購入しやすい「ソラリアシリーズ」を市場に投入し、販売活動を加速しています。

一般映像が堅調

当期の映像装置分野では、一般映像(シネマ以外の映像・画像装置)が引き続き好調でした。たとえば、スーパーコンピュータの計算結果も可視化できる非常に高度なバーチャルリアリティシステムなどが伸びています。現在は北米やヨーロッパなど映像先進地域での販売が先行していますが、今後はアジア地域における市場拡大も大きいと考えています。

また当期は、日本におけるプロジェクションマッピング元年といってもよい年でした。アメリカやヨーロッパでは実績があったものの、日本で大規模なものが実施されたのは2012年からで、クリスティのプロジェクタが東京スカイツリーや東京駅丸の内駅舎保存復原イベント、グランフロント大阪の開業イベントなどでも使用されています。

光源セグメントでは増収減益

先進国を中心にクリスティのDCPが普及したことを受け、創業以来50年間にわたってウシオの代表的商品であるシネマプロジェクタ用クセノンランプがさらにシェアを拡大し、売上高も増加しています。その一方で、光源製品の全般的な価格競争の激化により単価が下落し、減益となりました。当期は、製造コストの削減に焦点を当てた施策を実施して利益率の改善を図ったことから、今期以降にその成果が出てくるものと考えています。

3つ目の重点事業、メディカル、ライフサイエンス

現在当社は、今後長期にわたりウシオグループを支える柱に育てるべく、メディカル、ライフサイエンス分野に注力しています。エレクトロニクスや画像・映像の分野に比べるとまだ事業規模は小さいですが、治療と検査・診断という2本の柱でウシオが得意とする光を使ったビジネスを拡大していく考えです。すでにエキシマライト光線治療器「セラビーム®UV308」や、血液分析装置「ポイントリーダー®」などを市場に投入しており、これらの装置の潜在的市場は大変大きいと考えています。

アドテックエンジニアリングとのシナジー効果

2012年3月にアドテックエンジニアリングがウシオグループに加わって約1年が過ぎ、さまざまな共同作業が順調に進展しています。具体的には、アジアにおける販売網が充実した補完関係を構築しつつあり、生産拠点の連動、購買の連携はもちろんのこと、設計開発においては以前には考えられなかった短い期間で商品開発が完了するなどの成果が上がっています。

ドイツの100%子会社エクストリームを解散

ウシオグループでは、ドイツのエクストリームにおいて次世代の半導体露光光源としてEUVの研究開発を行なってきました。しかし、量産用光源の完成にはいまだに高いハードルがあると判断し、このほどエクストリームの解散を決定しました。今後は国内ですでに実績のある検査・開発用光源用に事業を縮小し、大幅に減少する開発費の一部を、ライフサイエンス事業などに振り向けていく計画です。

中期ビジョンと2014年3月期の見通し

ウシオでは毎年、ローリングプランとして3年間の中期ビジョンを策定していますが、このほど発表した中期ビジョンにおいては、各セグメントのビジョンと定量目標値も明確にしました。2016年3月期にグループ全体では、1,900億円の売上高と190億円の営業利益の目標を掲げ、達成に向けて鋭意努力しているところです。各セグメントの詳細につきましては、「セグメント別の概況」の右ページをご覧ください幸いです。

2014年3月期は、エレクトロニクス分野では、スマートフォンやタブレット端末が引き続き好調に推移し、設備投資や設備稼働率の回復が期待されます。映像・画像分野では、一般映像分野の伸長が期待できるほか、DCPの普及に伴いランプ需要も

堅調に推移することが見込まれています。今後も当社では、徹底した製造・管理コストの低減、新製品の開発や新規分野への用途開拓、新規事業の展開を積極的に進め、グループ全体のさらなる事業基盤強化を図っていきます。

これにより、2014年3月期の売上高は11.5%増の1,600億円、営業利益は64.9%増の125億円と増収増益を目指してまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2013年6月
代表取締役社長・CEO

菅田史朗

グループトピックス

新興国向けデジタルシネマプロジェクタ「ソラリアシリーズ」を投入

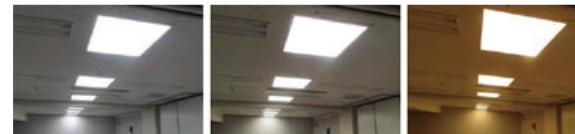
先進国を中心に、映画館におけるフィルム式シネマプロジェクタからデジタルシネマプロジェクタ(DCP)への置き換えが順調に進んだ結果、最近では需要の中心が新興国に移っています。クリスティではこれら地域のニーズにあわせて小型で購入しやすい「ソラリアシリーズ」を開発、販売を開始しました。

また、先進国でも小型スクリーン用のプロジェクタに対するニーズが増えていることから、今後はさらに需要が拡大することが期待されています。



次世代病院向け照明システム、スマートホスピタルライティングシステム

ウシオライティングが、戸田建設、村田製作所と共同で、次世代病院向け照明システム「スマートホスピタルライティングシステム」を開発し、実証実験を開始しました。これは、単調な入院生活で弱りがちな生体リズムを、LED光による昼夜変化を体感することで維持、生活サイクルの安定を図ることを目的とした照明システムです。



戸田建設本社ビルに設置されたスマートホスピタルライティングシステム
(写真左から、朝～昼～夕方を光色制御)

累計出荷1,200台以上を誇る リソグラフィ装置「UXシリーズ」にDI方式を ラインナップ

リソグラフィ装置「UXシリーズ」に、超微細・高速ダイレクト・イメージング(DI)方式の「UDX-8001P」を新たにラインナップ。業界最高の解像力5 μ m/L/Sと、35秒/面という高速スループットを実現し、従来のDIでは実現できなかった高精度なデザインルールのFC-BGAプロセスを可能にしました。これによりウシオは、リソグラフィ装置メーカーとして、プリント基板のさらなる高精細化と製造コストの低減に貢献します。



2.5D/3D積層インターポーザ専用ステッパ「UX7-3Di LIS 350」の販売を開始

大口径300mmシリコンウェーハに加え、405 $\times$ 350mm基板にも対応可能な新型ステッパです。近年増加しているシリコンウェーハ以外(ガラスや有機基板など)でのインターポーザの処理が可能な上、大ショットサイズの投影露光レンズを搭載したことで、スループット120枚/時間を実現しました。これにより、今後スマートフォンやタブレット端末向けに大きな需要が見込まれる各種2.5D積層デバイス用インターポーザの設計自由度を大幅に向上させるとともに、製造コストの削減にも貢献します。





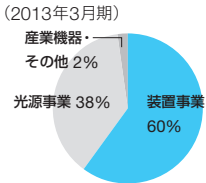
当期の業績

映像装置分野では、デジタルシネマプロジェクタが先進国において相当程度普及したことにより、販売が減少しました。光学装置分野では、スマートフォンやタブレット端末の市場は好調に推移しましたが、液晶テレビやパソコンの需要低迷が長期化しており、設備投資を抑制あるいは延期する動きが続き、液晶・半導体、LED関連、その他電子部品関連は低調に推移しました。その一方で、今後の業績向上、業容拡大につながる新技術・新製品の研究開発投資を積極的に進めました。

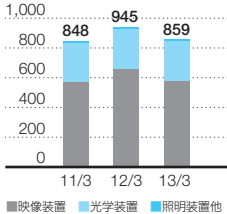
当期の装置事業の売上高は、前期比9.1％減の859億2千7百万円、セグメント利益は58.6％減の11億5千8百万円となりました。

主要数値

売上高構成比



売上高(億円)



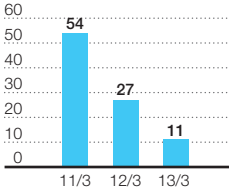
主な商品

露光装置、光硬化装置、光検査装置など光学装置
デジタルシネマプロジェクタ、コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステムなど映像装置
紫外線皮膚治療器、血管可視化装置など医療機器
検査・開発用EUV光源装置

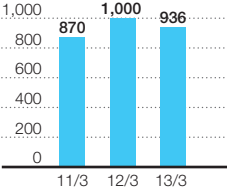
2014年3月期の見通し

映像機器関連市場では、全世界13万スクリーンのうち、10万弱のデジタル化が完了し、シネマプロジェクタのデジタル化需要は一巡しました。しかし、アジア、中南米、東欧、中東、アフリカなど新興国で新設のスクリーン数は今後も増加する見込みのため、新興国に適したモデルを拡販し、シェアを維持していきます。また、液晶・半導体関連市場、その他電子部品関連市場では、パソコンの需要は低迷が続くと思われるものの、スマートフォンやタブレット端末が引き続き好調に推移し、設備投資や設備稼働率の回復が期待されます。

セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)



売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

装置事業 中期ビジョン

■定量目標

	2013年3月期(実績)	2014年3月期(計画)	2015年3月期(計画)	2016年3月期(計画)
映像装置	577億円	589億円	605億円	615億円
光学装置	267億円	370億円	408億円	548億円

■事業戦略

映像装置

1. シネマ関連

先進国はデジタル化が相当程度進んだため、今後は新興国を対象に価格を抑えた新製品を販売することでシェアを維持し、消耗品であるランプ販売につなげていきます。

また、レーザダイオードによるハイエンドプロジェクタなど、新製品開発に対する投資を継続します。

2. シネマ以外の一般映像関連

シミュレータ、バーチャルリアリティなど没入感を利用して設計や開発の検証を行なう、付加価値の高いビジュアルエンバイロメントビジネスを拡大します。

また、コントロールルームやイベントなどで使用される映像装置(ビジネスプロダクト)の販売についても、引き続き安定成長を図ります。

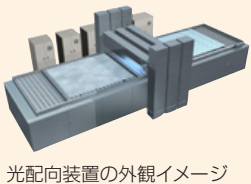
光学装置

1. フラットパネルディスプレイ関連

好調なスマートフォンやタブレット端末向け中小型パネル投資や、本格化する中国の液晶テレビ用大型パネル投資に対し、新プロセスの光配向装置などを拡販します。

2. 電子部品関連

既存の各種露光装置を拡販すると同時に、微細化が進む電子部品向け市場に対し、新製品開発を推進します。



光配向装置の外観イメージ



2.5D/3D積層インターポーザ専用ステッパ「UX7-3Di LIS 350」



光源事業

主な商品

半導体／FPD／プリント基板製造装置用UVランプ
各種監視、生体認証、光センサ用LED
照明用、データプロジェクタ用、シネマプロジェクタ用、OA機器用
など各種ランプおよびLED

当期の業績

光源事業では、デジタルシネマプロジェクタの普及に伴い、シネマプロジェクタ用クセノンランプの販売は堅調に推移し、当社の市場シェアは70%※を超える結果を残すことができました。

一方、露光用UVランプは、液晶・半導体関連メーカーの設備稼働率に緩やかな回復傾向が見られるものの、リプレイス需要は低調に推移しました。ハロゲンランプは、OAや照明関連が底堅く推移しました。なお、各種ランプの長寿命化、高輝度・高効率化など、製品開発を推進するとともに固体光源(LED・LD)製品の研究開発も積極的に進めました。

これらの結果、売上高は前期比4.0%増の546億5千2百万円、セグメント利益は19.5%減の61億9千7百万円となりました。

2014年3月期の見通し

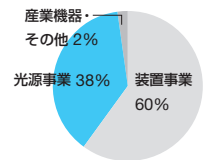
シネマプロジェクタのデジタル化需要はピークを越えて頭打ちになるものの、デジタルシネマプロジェクタの普及に伴いランプ需要は今後も拡大することが見込まれます。液晶・半導体関連市場、その他電子部品関連市場では、スマートフォンやタブレット端末が引き続き好調に推移していることから、ハロゲンランプ、放電ランプともに売り上げ増が期待されます。

※2013年4月30日現在 自社調べ

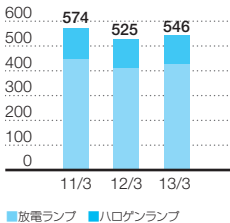
主要数値

売上高構成比

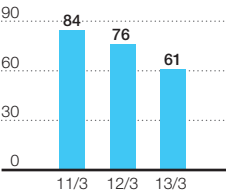
(2013年3月期)



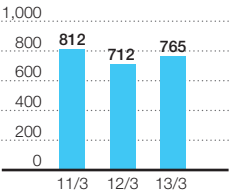
売上高(億円)



セグメント利益(億円)



セグメント資産(億円)



売上高には、内部売上高または振替高が含まれています。

光源事業 中期ビジョン

■定量目標

	2013年3月期(実績)	2014年3月期(計画)	2015年3月期(計画)	2016年3月期(計画)
放電ランプ	425億円	441億円	451億円	475億円
ハロゲンランプ	117億円	136億円	145億円	151億円

■事業戦略

放電ランプ事業およびハロゲンランプ事業

1. 既存製品

高い信頼性を維持し、シェアを維持・拡大します。

【主要製品のグローバルシェア】



UVランプ 約75%



デジタルシネマ用
クセノンランプ 約70%



OA機器用ハロゲンランプ
約70%

2. 新規製品

従来のランプに加え、固体光源を採用した新製品の開発を推進します。

貸借対照表(要約)

(単位:百万円)		
科目	第50期 (2013.3.31)	第49期 (2012.3.31)
資産の部		
流動資産	140,646	143,120
現金及び預金	42,136	41,692
受取手形及び売掛金	34,565	37,582
有価証券	14,140	12,043
商品及び製品	21,757	22,207
仕掛品	5,817	8,314
原材料及び貯蔵品	10,405	9,918
繰延税金資産	5,042	5,065
その他	7,497	6,819
貸倒引当金	△717	△523
固定資産	88,011	81,292
有形固定資産	36,776	37,827
建物及び構築物（純額）	17,802	16,780
機械装置及び運搬具（純額）	3,745	4,803
土地	9,057	8,885
その他	6,169	7,357
無形固定資産	2,863	3,900
投資その他の資産	48,371	39,564
投資有価証券	45,384	36,905
その他	2,986	2,658
資産合計	228,657	224,412

流動資産は、前期末に比べ24億7千4百万円減少し、1,406億4千6百万円となりました。主な増加要因は、余資運用による「有価証券」の増加、主な減少要因は、商量の減少による「受取手形及び売掛金」およびたな卸資産の減少です。

固定資産は、前期末に比べ67億1千9百万円増加し、880億1千1百万円となりました。主な増加要因は、債券購入および株式市況の回復による「投資有価証券」の増加です。

(単位:百万円)

科目	第50期 (2013.3.31)	第49期 (2012.3.31)
負債の部		
流動負債	37,950	40,634
支払手形及び買掛金	16,610	18,477
短期借入金	1,904	4,383
その他	19,435	17,773
固定負債	13,922	21,729
長期借入金	2,791	7,439
繰延税金負債	1,089	5,954
その他	10,042	8,335
負債合計	51,873	62,364
純資産の部		
株主資本	162,609	158,341
資本金	19,556	19,556
資本剰余金	28,371	28,371
利益剰余金	126,912	122,642
自己株式	△12,231	△12,228
その他の包括利益累計額	11,019	524
その他有価証券評価差額金	14,666	12,628
繰延ヘッジ損益	△23	－
為替換算調整勘定	△3,623	△12,103
少数株主持分	3,155	3,183
純資産合計	176,784	162,048
負債純資産合計	228,657	224,412

負債は、前期末に比べ104億9千万円減少し、518億7千3百万円となりました。主な減少要因は、商量の減少による「支払手形及び買掛金」の減少、銀行借入の返済による「短期借入金」の減少です。

純資産は、前期末に比べ147億3千6百万円増加し、1,767億8千4百万円となりました。主な増加要因は、期末に向けての円安による「為替換算調整勘定」の増加、保有有価証券の評価増に伴う「その他有価証券評価差額金」の増加です。

損益計算書(要約)

(単位:百万円)		
科目	第50期 (2012.4.1～2013.3.31)	第49期 (2011.4.1～2012.3.31)
売上高	143,461	150,087
売上原価	95,196	101,635
売上総利益	48,264	48,451
販売費及び一般管理費	40,682	37,755
営業利益	7,582	10,696
営業外収益	3,544	3,216
営業外費用	587	799
経常利益	10,539	13,112
特別利益	57	3,871
特別損失	4,545	3,221
税金等調整前当期純利益	6,050	13,762
法人税等合計	△924	4,728
少数株主利益	△179	286
当期純利益	7,155	8,748

包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)		
科目	第50期 (2012.4.1～2013.3.31)	第49期 (2011.4.1～2012.3.31)
少数株主損益調整前当期純利益	6,975	9,034
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,040	383
繰延ヘッジ損益	△23	－
為替換算調整勘定	8,662	△535
持分法適用会社に対する持分相当額	10	12
その他の包括利益合計	10,689	△139
包括利益	17,665	8,895

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)		
科目	第50期 (2012.4.1～2013.3.31)	第49期 (2011.4.1～2012.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,443	12,382
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,649	1,911
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,092	△7,615
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,975	△47
現金及び現金同等物の増減額	1,676	6,630
現金及び現金同等物の期首残高	41,585	34,954
現金及び現金同等物の期末残高	43,261	41,585

将来に向けた新技術・新製品の研究開発に積極的な投資を行なう一方、生産性の向上や製造コストの低減、経費の圧縮、海外展開強化に向けた生産・販売体制の整備・拡充、適地生産の促進など、全グループを挙げて業績の向上に注力しましたが、**売上高**で前期比4.4％減の1,434億6千1百万円、**営業利益**で前期比29.1％減の75億8千2百万円、**経常利益**で前期比19.6％減の105億3千9百万円、**当期純利益**で前期比18.2％減の71億5千5百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の計上60億5千万円、減価償却費の発生67億4千1百万円、売上債権の減少52億8千2百万円、たな卸資産の減少50億6千7百万円による収入があった一方で、仕入債務の減少27億5百万円、および法人税等の支払57億2百万円の支出により、144億4千3百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻165億2千9百万円、有価証券の売却及び償還73億4千5百万円、投資有価証券の売却及び償還27億1千9百万円による収入と、定期預金の預入179億1千5百万円、有価証券の取得47億6千8百万円、有形固定資産の取得64億3千5百万円、および投資有価証券の取得68億5千万円の支出により、86億4千9百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少27億2千9百万円、長期借入金の返済14億3千2百万円、配当金の支払28億8千5百万円の支出により、70億9千2百万円の支出となりました。

株主資本等変動計算書

第50期 (2012.4.1～2013.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
2012.4.1 残高	19,556	28,371	122,642	△12,228	158,341	12,628	－	△12,103	524	3,183	162,048
当期変動額											
剰余金の配当*			△2,884		△2,884						△2,884
当期純利益			7,155		7,155						7,155
自己株式の取得				△2	△2						△2
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						2,038	△23	8,480	10,495	△27	10,467
当期変動額合計	－	－	4,270	△2	4,268	2,038	△23	8,480	10,495	△27	14,736
2013.3.31 残高	19,556	28,371	126,912	△12,231	162,609	14,666	△23	△3,623	11,019	3,155	176,784

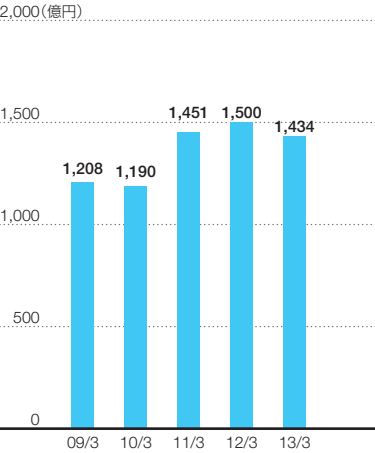
※2013年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

第49期 (2011.4.1～2012.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
2011.4.1 残高	19,556	28,371	116,831	△9,215	155,544	12,245	△11,622	622	1,700	157,867
当期変動額										
剰余金の配当*			△2,937		△2,937					△2,937
当期純利益			8,748		8,748					8,748
自己株式の取得				△3,013	△3,013					△3,013
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						382	△481	△98	1,482	1,383
当期変動額合計	－	－	5,810	△3,013	2,796	382	△481	△98	1,482	4,180
2012.3.31 残高	19,556	28,371	122,642	△12,228	158,341	12,628	△12,103	524	3,183	162,048

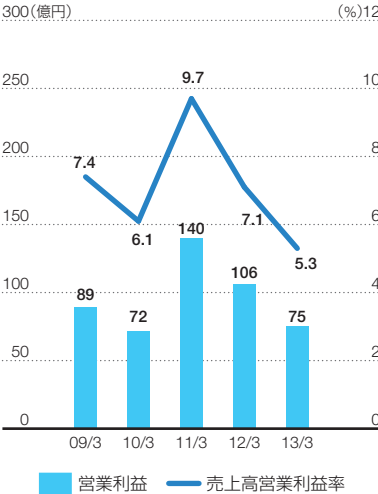
※2012年6月の定時株主総会における利益処分項目です。

数字で見るウシオ（連結ベース）

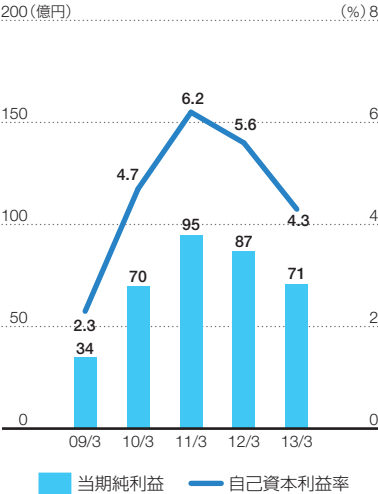
売上高



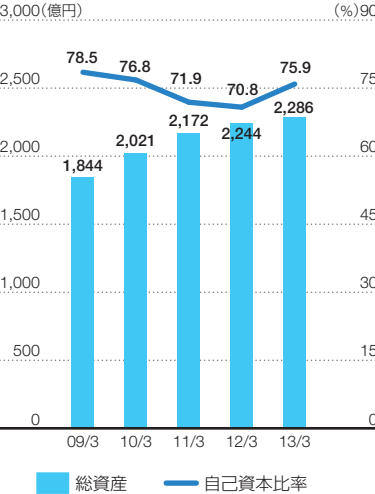
営業利益／売上高営業利益率



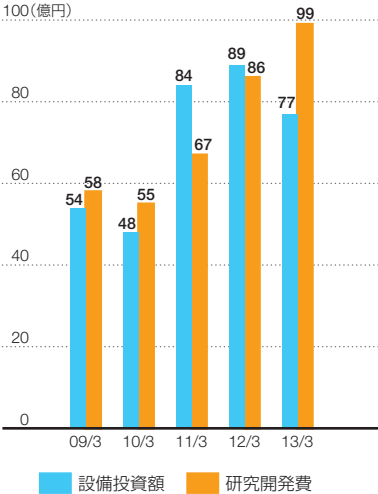
当期純利益／自己資本利益率(ROE)



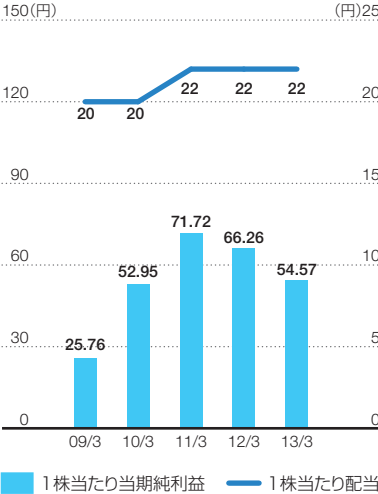
総資産／自己資本比率



設備投資額／研究開発費



1株当たり当期純利益／1株当たり配当金



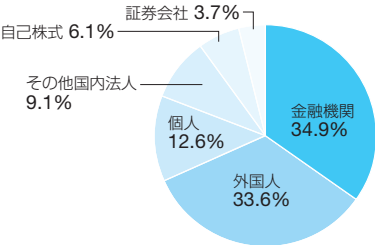
※数字はすべての表示数未満の位を切り捨てて記載しております。

発行済株式総数 139,628,721株
株主 15,240名

大株主の状況 (200万株以上)		
株主名	持株数 (千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,249	5.90%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,487	3.21%
朝日生命保険相互会社	4,477	3.20%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	4,385	3.14%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	3,964	2.83%
株式会社りそな銀行	3,616	2.58%
ジェービー モルガン チェース バンク 385174	3,577	2.56%
みずほ証券株式会社	3,468	2.48%
ノーザントラスト カンパニー (エイブイエフシー)		
サブ アカUNT アメリカン クライアント	3,372	2.41%
牛尾治朗	3,201	2.29%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社りそな銀行退職給付信託口)	2,924	2.09%
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	2,437	1.74%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%
メロン バンク エヌエー アズ エージェント フォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	2,274	1.62%
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,161	1.54%

※上記のほか、当社が所有している自己株式8,501千株があります。
※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株式の分布状況



設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員 (2013年6月27日現在)

代表取締役会長	牛尾 治朗
代表取締役社長	菅田 史朗
取締役	多木 正
取締役	浜島 健爾
取締役	徳廣 慶三
取締役	牛尾 志朗
取締役	多田龍太郎
取締役	伴野 裕明
取締役	田中 米太
取締役	小林 敦之
取締役(社外)	中前 忠
常勤監査役	神崎伸一郎
常勤監査役	大島 誠司
監査役(社外)	服部 秀一
監査役(社外)	宮崎 靖亮
監査役(社外)	塩畑 一男

従業員数 (2013年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,793名
国内グルー プ計	574名
海外グルー プ計	3,249名
合計	5,616名

グループ会社 (2013年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社	
本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
東京営業本部	東京都千代田区
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社
株式会社ジーベックス
株式会社ウシオスペックス
日本電子技術株式会社
株式会社エピテックス
株式会社アドテックエンジニアリング
他4社

海外グループ会社

- 北米
- USHIO AMERICA, INC.
 - USHIO CANADA, INC.
 - CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
 - CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
 - CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
 - NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.
 - Vista Controls Systems, Corp.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht-und Vakuumtechnik GmbH
- NATRIUM Sp. zo.o.

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.

他19社

株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
基 準 日	3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。
利益配当金受領	3月31日
株 主 確 定 日	なお、中間配当制度は採用しておりません。
公 告 掲 載 URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
1単元の株式数	100株
株式銘柄コード	6925
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電 話 照 会 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行の本店および全国各支店で 行なっております。

住所変更、単元未満株式の買取などのお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行ないます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましては、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

発行：ウシオ電機株式会社 広報IR室
〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1
TEL: 03-3242-1815 FAX: 03-3245-0589

<http://www.ushio.co.jp>

P・R・I・S・M PRISM(プリズム)は透明な光学ガラスでできた多面体で、光を分散・屈折・反射させるときに用います。「PRISM」は、光を柱に事業を展開するUSHIOの今と未来を多面的に取り上げ、株主や投資家の皆さまにお伝える情報誌です。ウシオISMをPRし、理解を深めていただく編集意図もこめて、名づけました。



この印刷物は、環境に優しい再生紙と、大豆インキを使用しています。